

添乗指導の際、ドライバーの行動を的確に評価するために

日本郵便輸送(株)は、郵便局やポストから郵便物を集め、郵便局間の郵便物運送を行っている企業だ。同社では、全国の営業所に配置している運行管理者がドライバーへの安全運転教育を担っていることから、この運行管理者を対象とした研修を4年前から鈴鹿サーキット交通教育センターで実施している。今年の研修は5月に8回(各回2日間)開催され、全国の支社・営業所から160名が参加したが、本年初めて協力会社からも希望をとって32名が参加、合計192名が受講した。



受講者は3名1組で交通教育センター内で指定されたコースを走行し、運転を交代しながら相互にチェックし合う

日本郵便輸送(株)安全推進部長の今西謙二さんは「昨年までは運転技術の指導に重点を置いていたプログラムでしたが、今年は内容を大幅に変更しました。当社では定期的に運行管理者がドライバーへの添乗指導を行っています。この時にドライバーの運転特性をきちんと把握し、より安全な行動をとってもらうための指導ができるようなプログラムにしました」と話す。

研修1日目は、交通ルールなどの安全知識をテスト形式で確認。さらに、インストラクターが添乗指導をする際のチェック項目を解説した。研修2日目は、受講者が3名1組でクルマに乗り、交通教育センター内で指定されたコースを走行。相互に運転をチェックする練習を行う。それが終わると、インストラクターの運転するクルマに受講者が同乗し、インストラクターの運転を評価する。インストラクターは運転中にあっては安全行動をとり、受講者はそれを「添乗指導

乗車から降車までのインストラクターの運転を観察。教室に戻って、どこに不安全行動があったかを指摘する



大型バスに受講者を乗せ、インストラクターが大型車で添乗指導する際のアドバイスを行う

研修を見守った今西さんは、「ドライバーの安全を確認しておくことも重要で、事故件数は減少してきました。ここから更に減らしていくためには、ドライバーへの教育といったソフト面の充実が大切です。この研修によって、各職場で適切な添乗指導ができると思います。また、交通教育センターの協力を得ながら、チェックシートの項目等も見直していきたい」と話していた。

チェックシート」に記入。そして教室に戻り、「乗車時にクルマの周囲の確認を怠りなかつた」「合図を出すのが遅い」「予告ブレーキを使っていなかつた」「左折時に内掛けハンドルを使っていた」「右後方を確認せずに降車した」など、インストラクターの運転で気になった点を発表する。インストラクターは「私たちが同時に複数の不安全行動をとった時、すべてチェックできていた方は少なかつたように思います。皆さんがチェックシートに記入している瞬間、ドライバーが別の不安全行動をとっていることもあるので、1つの動作にとらわれず、行動を全体的に観察できるように意識してください。また、皆さんはドライバーより早く周囲の安全を確認しておくことも重要です」と注意を促す。そのした点をふまえて、相互の運転をチェックし合い、研修は終了した。

TOPICS 1 ●家族で学ぶHondaの交通安全教室

一人でも多くの方に交通安全への理解を深めてもらう

「交通安全クイズ」では年齢に

「ホンダ交通安全かるた」のコーナーは4歳から小学校低学年が対象。かるた取りを始める前に、ホンダのスタッフがかるたの絵札(写真右参照)を用いて、集まった子どもたちに交通安全ルールの意味を説明。その読み札は「右左も一度右観て 渡りましょう」。スタッフが左右の安全確認の動作を示し、子どもたちにも実践してもらおう。その後、子どもたちは並べられた絵札のまわりに座り、かるた取りが始まる。絵札を取った子どもにはそれを掲げてもらい、スタッフがその絵札に合わせて事故に遭わないためのポイントを説明した。

会場内には「ホンダ交通安全かるた」「交通安全クイズ」「ホンダ自転車シミュレーター」の3つのプログラムが用意され、同店を訪れる人々が興味のあるものを選んで参加できるようにしている。



家族にも協力してもらいながら、交通安全クイズに取り組む子どもたち



合わせて、標識の意味や基本的な交通ルールなどを出題し、解答してもらおう。各プログラムを体験した子どもたちには参加賞がプレゼントされた。

「ホンダ自転車シミュレーター」のコーナーでは、シミュレーター体験を通じて、スタッフが子どもたちに自転車の安全な乗り方を指導。6歳のお子さんと来場した父親は「シミュレーターがとてもリアルなので驚きました。左右や右後方の安全確認の重要性がわかり、家庭での指導の参考になりました」と話す。また、会場内には、「SAFETY MAP」(8面参照)の体験コーナーも設けられ、来場者の注目を集めていた。

来場した多くの子どもたちがHonda自転車シミュレーターを体験



Hondaのスタッフが絵札を用いて事故防止のためのアドバイスを行った後、かるた取りが行われた。「Honda交通安全かるた」の詳細は以下のホームページを参照。
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/karuta/>

「SAFETY MAP」はタブレット端末やスマートフォンを使って、全国の事故多発エリアが閲覧できることを来場者にPRし利用を促す

「2014トラフィック セーフティ・フォーラム in 埼玉」開催

●主催：交通教育センターレインボー埼玉
交通教育センターレインボー和光

参加費無料

テーマ：「安全・安心な未来の交通社会を目指した普及活動」
日時：2014年11月28日(金)午後1時00分～午後4時30分
会場：埼玉会館 小ホール(埼玉県さいたま市高砂3-14 / JR浦和駅西口下車 徒歩約6分)
定員：400名(予約制)

申込：下記ホームページより参加申込書を印刷の上、FAXによりお申込みください。 <http://www.tec-r.com/>
締切：2014年11月14日(金) ※定員になり次第締め切り
内容：事例発表/ボラス(株) 藤原一博氏、(株) ドミノ・ピザジャパン 高井龍哉氏

内容：講演/「自動車事故防止～現状と今後の展望～」
損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント(株) 宮崎健太郎氏
お問合わせ先：交通教育センターレインボー埼玉 フォーラム事務局 ※月曜定休
TEL：049-297-4111 FAX：049-297-6273